

# 救える歯がある、人生がある

～TCという仕事を通して私達に出来ること～

医療法人社団統鶴会 スマイルデンタルクリニック

青野 麻衣子

2022年2月1日

## 《きっかけ》

記憶の中の5歳の私は泣いていた。涙で歪んだ視界の先に見えるのは口の中を煌々と照らすライトと私の顔を覗き込むマスクをした表情の読めない男性医師。なんの説明もないまま、医師は甲高い機械音のする銀色の器具を嫌がる私を無視して口の中に入れてきた。頭の後ろまで振動が響き、それと同時に痛烈な痛みを感じた。恐怖でしかなかった。それが私と歯科医院とののはじめての出会いだった。

それから、私にとって歯科は恐ろしい場所という印象が強く残った。そんな恐ろしい場所で自分が働くななんて想像もしていなかった。

初めは福利厚生やプライベートの時間がしっかり取れるという安易な理由から働き始めた歯科医院だったが医師の隣で介助を行うたびに恐怖心を訴えてくる患者さんの気持ちが痛いほどわかり、ライセンスのない私にも何か患者さんにできることはないかと考えるようになり、辿り着いたのがTCという仕事である。

自ら志願したにも関わらず初めは医師の診療の合間に補綴物の説明をするだけの人だった。患者さんと向き合う時間も少ない為、患者さんに寄り添いきれない歯がゆさを感じる日々だった。

しかし転居からの転職をきっかけに自分の予約枠を持ち、カウンセリングルームで毎日TCとして患者さんと対峙する日々が始まった。

## 《TCスクールを受講して今後何ができるか、理想のTCとは》

患者さんとTCとして向き合って早10年が経った。カウンセリングは段々と作業的になり形骸化していき、完全に患者さんに寄り添う...という基本的なことが出来なくなっていた。

そんな状態でTCのフリーランスの仕事に興味を持ち、ネット検索から鈴木誓子先生の名前を見つけ今回のスクールと出会った。

スクールを受け、患者さんの言葉には背景がある...という鈴木先生の言葉に、患者さんに寄り添えなくなっていた自分自身に気づき恥ずかしささえ覚えた。天狗鼻は完全に折られたのである。

それから患者さんの健康観やパーソナル、バックヤードを知りたいと今までの倍の時間、傾聴に費やした。それに合わせて治療のプランニングを一緒に考えるよう自分を正していった。

ロススパイラルの話、補綴物における銀イオンの話、セミナーで学び得たトークを取り入れると患者さんの反応が明らかに違うことを実感した。私が今出来ることは教えていただいたことをしっかりとムラなく患者さんに伝えていき患者さんの健康観を少しでも変えられるTCになることだと感じた。

また患者さんの前向きな言葉で私の心も満たされていくのがわかった。まだまだTCとして未熟ではあるが今回学んだことで、患者さんの健康に対しての欲求を高めるだけでなく患者さんの人生を良い道へ変えられるTCになりたい、またこんなにも素敵な仕事だということを後輩たちにしっかり継承していきたい、院内でTCから他のスタッフにも患者さん視点を持って働きかけることで患者さんの幸せを考えられる医療従事者を増やしていきたいという理想を胸に持った。

### 《日本の歯科医療におけるTCの役割》

日本でTCのいる歯科医院は全国の20%程度と聞いている。さらにTCという役割を医師たちが「ただ自費を契約する人」いう認識でしかない事を他の歯科医院を見学する先々で、また医師同士の勉強会に参加させてもらった際に医師が私に伝えてくる言葉の端々で強く感じた。

日本には保険制度があることで欧米と比べ手軽に治療を受けられる為、予防への意識が低いと言われている。

スウェーデンでは90%の人が定期健診を受けているのに対し、日本では5%も満たないという。

定期健診を受けてない方の80代での残存歯数の差が著しいことはスクールの中でも学んだ。つまりそれは私たちTCが救える人たちが日本ではあと95%以上いるという意味でもあると思う。

TCとは自費を契約する為にいるのではなく、例えば食への喜び、人前で思い切り笑ったり話したり出来るという自信、口腔内が維持されそれによって健康な体を得て幸せな人生を患者さんに送っていただく為の道しるべ的存在である。

幸せな人生を得るために、結果的に患者さんは無理矢理自費治療を行うのではなく自ら選ぶのである。

それを日本の多くの歯科医師にも理解してもらい、患者さんの幸せを願えるTCを取り入れる歯科医院が増えていくことが私の願いだ。また、それは今後の日本の歯科医療におけるTCの課題でもあると思う。

#### 《さいごに》

今回、私の天狗鼻をしっかりとへし折って下さってありがとうございました(笑)。私にとってこのTCスクールと出会えた事は人生の中でも大きなターニングポイントになりました。コロナ禍でもスクールが中止になることなく、しっかり感染対策をしていただいたことで全て参加できた事、感謝いたします。大変お世話になりました。

以上、1959字